

成果指標				
成果指標	利用率(%) = 上屋全体利用件数 ÷ 上屋部屋数(12部屋数)			
指標設定の考え方	利用率が100%に近づくほど、使用料の増収となり、施設の有効利用が図られる。			
区分年度	24年度	25年度	26年度	
目標	100%	100%	0	0
実績	100%	100%	0	0

自己評価				
自己評価 (担当責任者)	妥当性	目的の妥当性	3	C
		市民ニーズへの対応	2	
		市の関与の妥当性	3	
	有効性	事業の効果	3	B
		成果向上の可能性	4	
		施策への貢献度	4	
	効率性	手段の最適性	4	B
		コスト効率	4	
		受益者負担の適正	4	
課題認識	平成25年12月に発生した突風による施設損壊事故を教訓として、施設の長寿命化に向け、施設使用料の範囲内において、計画的に施設改修を進める必要がある。			

一次評価				
一次評価 (所属長)	妥当性	目的の妥当性	3	C
		市民ニーズへの対応	2	
		市の関与の妥当性	3	
	有効性	事業の効果	3	B
		成果向上の可能性	4	
		施策への貢献度	4	
	効率性	手段の最適性	4	B
		コスト効率	4	
		受益者負担の適正	4	
課題認識	一般会計への繰入金は毎年800万円前後で推移し、多い年度では1220万円程度ある。しかしながら、施設の老朽化が著しく、今後は施設の修繕費用がかさんでくるが、施設の新築には多額の費用がかかる上、船舶を利用しての上屋使用は今後も上昇することは考えられない。よって、最低限の維持修繕により現状維持をする。			

二次評価	
二次評価 (所属部長)	一次評価結果のとおり事業継続と判断する。
意見、課題	

行政評価委員会の答申

外部評価 (行政評価委員会)	
-------------------	--

経営者会議の最終判断

事業の方向性	現状のまま継続する。
意見、課題	